

2022年10月24日
公益財団法人イオン環境財団
イオン琉球株式会社

令和首里城復興イベント「木曳パレード」を記念して
10月29日（土）31日（月）苗木を配布

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役 代表執行役会長 以下、当財団）と、イオン琉球株式会社（代表取締役社長 鯉淵豊太郎）は、令和首里城復興イベント「木曳式応援事業」として、10月29日（土）、31日（月）に、ご家庭で育てていただける苗木の無料配布を実施します。

この苗木配布は、首里城造営・修復に際して行われてきた祭事「木曳式」に倣い、令和首里城正殿の建材として使われるオキナワウラジロガシの「御材木」が、伐採地の国頭村から那覇市まで「木曳パレード」することを記念して、実施するものです。

当日は、首里城の復興と、環境保護の意識が高まることを願って、パレードの道筋にあたるイオン3店舗にて、地域の皆さまとともに盛大に「御材木」をお出迎えし、ご家庭で育てていただける苗木を無料で配布いたします。

また当財団は、首里城復興支援の一環として、将来の首里城の建材となるイヌマキの苗木を皆さまに一定期間育てていただく「苗木の里親プロジェクト」を発足し、昨年苗木を配布し本年3月に苗木を回収、国頭村辺野喜ダム周辺に植樹しました。本年もイヌマキ100本を捕植します。

当財団は、今後も豊かな自然を次世代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

主催 公益財団法人イオン環境財団・イオン琉球株式会社
本数 合計2,000本
樹種 ハイビスカス・ゲッキツ・ミニサンダンカの3種類

日時 2022年10月29日（土）①12:00～500本 ②15:30～500本
場所 イオンモール沖縄ライカム（アライバルゲート付近団体バス駐車場）
御材木お出迎えイベント15:30～ 国頭サバクイ演舞

日時 2022年10月31日（月） 11:00～500本
場所 イオン北谷店（中央入り口前駐車場）

日時 2022年10月31日（月）①12:00～200本 ②15:00～300本
場所 イオン具志川店（モール中央入り口前駐車場）
御材木お出迎えイベント15:00～ 名桜エイサー演舞



店舗での苗木配布の様子



名桜エイサーの皆さま



3月のイヌマキ植樹

以上

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社 名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。

以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業活動を中心に、活動に取り組んでおります。今後は持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組みます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。

当財団の植樹を含むイオン全体の植樹の累計本数は、1991年のスタートから数えて約1,241万本（2022年2月末時点）となります。

【沖縄県における環境活動】

■2007年～2009年 那覇最終処分場跡地植樹

那覇・南風原クリーンセンターの一角は、戦時中焼野原となり一画がゴミ処理場として利用されていましたがその役目も終わり地域の皆さまの憩いの場として生まれ変わるための「緑化推進」が計画されました。当財団はそれに賛同し3年間にわたり約3,500名のボランティアの皆さまとともに30,000本を植樹しました。



■2017年 糸満市植樹

糸満市にある平和祈念公園には、沖縄戦の写真や遺品を展示した平和記念資料館をはじめ、平和の礎や慰霊塔があり、国内外から多くの方が訪れ、平和を願う象徴的な場所となっています。

当財団は、同公園が緑に囲まれて、皆さまにとっていっそう親しまれる場になることを願い、500名のボランティアの皆さまとともに、5,300本の植樹を行いました。



■2018年 宜野湾市植樹

沖縄戦の戦跡で、平和学習の場となっている宜野湾市の嘉数高台公園は、市民の方々の憩いの場として利用されています。

より多くの方が訪れるさくらの名所にしたいと願い300名のボランティアの皆さまとともに、1,000本のさくらを植樹しました。



■2021年 世界自然遺産保全のための寄付

世界自然遺産に登録された沖縄本島北部の 国頭村、大宜味村、東村、西表島を有する竹富町に1千万円ずつ合計4千万円の寄付を12月に実施しました。寄付金は、亜熱帯照葉樹林の保全、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ等の固有種の保護、その他世界自然遺産保全に関わる事項に使われます。



■2022年 「イオン エコワングランプリ」高校生特別交流事業

高校生の優れたエコ活動を表彰する「イオン エコワングランプリ」を受賞した高校生と沖縄県の高中生が、沖縄の赤土流出問題を考える交流事業を実施しました。

日本古来の土壌固化技術「三和土」^{たたくき}で敷地からの土壌流出を防ぐ技術が評価された青森県立名久井農業高校の生徒が、3月に沖縄県立八重山高校、5月に沖縄県立辺土名高校、同県立北部農林高校の生徒と交流し、試験地に三和土を設置しました。

